

## 令和3年度第4回春日井市地域公共交通会議議事録

1 開催日時 令和4年3月18日（金曜日）午前10時～午前11時30分

2 開催場所 文化フォーラム春日井2階 会議室A及び会議室B

3 出席者

【会長】	中部大学 工学部都市建設工学科教授	磯部 友彦
【委員】	名鉄バス株式会社運行本部運行部運行課長	大野 淳
	近鉄東美タクシー株式会社春日井営業所長	相川 敏行
	公益社団法人愛知県バス協会専務理事	小林 祐之
	愛知県タクシー協会春日井支部長	奥村 薫績
	春日井市区長町内会長連合会理事	幸池 登
	春日井市民生委員児童委員協議会長	小川 寛
	春日井市老人クラブ連合会副会長	金田 辰男
	春日井商工会議所副会頭	木野瀬 吉孝
	社会福祉法人春日井市社会福祉協議会会長	黒田 龍嗣
	春日井市婦人会協議会書記	伊藤 月美
	愛知県春日井警察署交通課長	橋本 博史
	春日井市建設部道路課長	苅谷 健生
【参考人】	国土交通省中部運輸局愛知運輸支局 運輸企画専門官	木下 淳一
	愛知県都市・交通局交通対策課主事	八木 郁也
	高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社主幹	木村 俊夫
	名古屋市交通局自動車部主幹	中根 純
	春日井市まちづくり推進部長	大島 常生
【事務局】	春日井市建設部次長兼まちづくり推進部次長	尾関 健次
	春日井市まちづくり推進部都市政策課 課長	森 浩之
	課長補佐	松浦 武幸
	主査	津田 哲宏
	主査	米山 創
	技師	菊池 滉記

#### 4 傍聴者

2名

#### 5 議題

- (1) 協議事項 1 北部オンデマンドバスについて
- (2) 報告事項 1 高蔵寺駅に新たに乗り入れる名古屋市営バスについて
- (3) 報告事項 2 「シルバーパス65、ゴールドパス70」購入補助実証実験結果報告
- (4) 報告事項 3 高蔵寺ニュータウンにおける交通に係る取組について
- (5) 報告事項 4 春日井市地域公共交通計画の進捗状況について

#### 6 会議資料

- 資料 1 北部オンデマンドバスについて
- 資料 2 高蔵寺駅に新たに乗り入れる名古屋市営バスについて
- 資料 3 「シルバーパス65、ゴールドパス70」購入補助実証実験結果報告
- 資料 4 高蔵寺ニュータウンにおける交通に係る取組について
- 資料 5 春日井市地域公共交通計画の進捗状況について

#### 7 議事内容

- (1) 協議事項 1 北部オンデマンドバスについて

##### 【事務局 米山】

資料 1 について説明を行った。

##### 【磯部会長】

協議事項のため意見交換を行った後、決議を行う。

##### 【木下参考人】

資料 9 ページの予約を断った件数について。予約を断ることについてどのような傾向があるか。

##### 【事務局 松浦】

運行事業者からの聴き取りでは、牛山町のエリアから春日井市民病院への移動や、町屋町や上田楽町のエリアからバロー春日井西店への移動には、町屋町の交差点を通過する必要があり、この交差点の交通量が非常に多く、一便あたりの運行に時間を要するため、朝 10 時頃の人気がある運行時間帯は予約を断ることが多いと聞いている。

##### 【奥村委員】

当日の朝 7 時半になった段階で一日の予約が 8 割から 9 割ぐらい確定しており、その日のルートが大方完成しているため、当日の予約を断ることがある。市民病院から帰る際に予約ができず、名鉄バスやタクシーを利用して帰ることになると利用者から聞いている。

**【木下参考人】**

断るエリアが決まっているのであれば、それに合わせた対応ができると考える。予約が取れないことについて苦情はあるか。

**【事務局 松浦】**

資料13 ページの地域懇談会において、予約が取りにくいとの声を聞いている。この意見については春日井市役所にも多く寄せられている。

**【木下参考人】**

予約が取りにくいことは、利用者が離れるリスクになるので丁寧に対応してほしい。

乗降ポイントの追加について補足すると、前並公民館南は現在の運行区域に含まれていないので、本日、地域公共交通会議で協議された後、運行事業者から愛知運輸支局へ事業計画の変更の届出を提出する必要がある。新しい乗降ポイントの具体的な開始日は決まっているか。

**【事務局 松浦】**

周知、乗降ポイントの設置、手続等があるため、7月1日を目標に夏頃には開始したいと考えている。

**【木下参考人】**

7月1日実施予定であれば、運行事業者は5月末には事業計画の変更を提出してほしい。車両の台数を増やすことは検討しているか。

**【事務局 松浦】**

資料4 ページには乗合率を記載しており、乗合なしが53%となっていることから、現状の車両台数のまま乗り合いを増やすことで、現在の経費のままどの程度利用者を増やすことができるのか検証していく必要があると考えている。

また、地域の利用者に、予約時間に来て希望の時間で到着するタクシーのような乗り物でないことを理解していただき、システム上も余裕を持った予約を受け付けられるよう改良する作業を行っている。

**【木下参考人】**

乗合率を高めれば、改善していくことだと思う。今後の課題ということで引き続き取り組んでいただきたい。

**【奥村委員】**

追加の乗降ポイントについて補足すると、新開町については、かすがいシティバス北部線のバス停があった場所になり、北部オンデマンドバス運行開始時に無くした場所であるため、周辺の利用者から追加してほしいと話があった。前並公民館南についても、追加してほしいという声を多く聞いている。

**【磯部会長】**

新開町については運行区域内での追加になるため、準備でき次第追加し、前並公民館南と運用開始時期がずれる形で運用してはどうか。

**【事務局 松浦】**

システム作成や周知期間の関係上、同じ時期に運用開始と考えている。

**【磯部会長】**

運賃の変更はなしで、新たな乗降ポイントの追加は7月1日から開始ということで承認してよろしいか。

**【委員】**

異議なし

**【磯部会長】**

協議事項1 北部オンデマンドバスについて承認する。

(2) 報告事項1 高蔵寺駅に新たに乗り入れる名古屋市営バスについて

**【中根参考人】**

資料2について説明を行った。あわせて、今後の高蔵寺駅以外の春日井市内の駅への乗り入れを検討していることについて説明を行った。

**【磯部会長】**

高蔵寺南口駅前広場は狭く、名鉄バスやかすがいシティバスも停車する。また現在改修工事中であり、さらに狭い状態である。駅前広場での運用について説明をして欲しい。

**【中根参考人】**

安全第一の運行が事業者としての使命だと考えている。工事中の運用については、現場で調整をしている。バス停の数は限られており、名古屋市交通局が現在使用しているバス停を使用するため、新たなバス停の設置は行わない。

現在、昼間時間帯に乗り入れをしている志段味循環系統は、朝夕に走行していないため、朝夕に新たな路線の乗り入れをしても、バス停でバスが重なり合うことは基本的には起こらないと考える。交通渋滞等で大幅な遅延が起きたりすると、バスが重なり合う可能性があるが、ダイヤの設定を名鉄バス春日井営業所と調整し、最善の方法でバス運行をしたい。

**【奥村委員】**

将来的に高蔵寺以外の他の駅に進出したいと発言があったが、タクシー会社もバス会社も、庄内川を境に営業区域があり、それぞれ交通需要が違うため運賃設定等も違う。名古屋市のバスが地域をまたぐ運行をすると利用者としては利便がいいように思えるが、春日井市内商店の事業者は利用者が市外へ流出するのではないかと心配している。一方で、春日井市内のタクシー事業者や名鉄バスが名古屋市に相互乗り入れをしても、春日井市内のタクシー事業者の方が運賃設定は高く、また、名古屋市のバスには敬老バスも使用できると考えると、春日井の事業者は厳しい状況になる。

神領駅も区画整理され、タクシーも常駐で1台、2台待機ができるようになったところであるが、そこにこのような交通が入ってくるとタクシー事業者としてはとても不安に思

う。

高蔵寺駅には、すでにゆとりーとラインが乗り入れしているので、名古屋市バスが入らなくても、藤塚で迂回する等、市バスは名古屋市内だけを走り、ゆとりーとラインが回って相互乗り入れをする対応はできないのか。

名古屋市と春日井市で協議し、商店や交通事業者、市民に影響がないのかを話し合い、事業者同士の話を進めていただきたい。現状乗り入れてもらおうと困る。

**【大野委員】**

会長からの指摘どおり、高蔵寺駅南口は大変狭い場所なので、十分安全を確保し、事故のないようにお願いしたいというのが名鉄バスとしての意見。それから、中央線の他駅への乗り入れることも考えているとのことだったが、春日井市内の中央線より北側のエリアに名鉄バス路線は多く存在するが、中央線より南側も意識している。このあたりを調整させていただき、情報交換しながら、市民の利便性を損なわないようにしたい。また、奥村委員も言われたが、それぞれの事業者の役割がある。そこも調整したい。

**【磯部会長】**

春日井市は地域公共交通計画を策定済みである。その中に、名古屋市の市バスについてはどのような役割があると記載されているか。地域公共交通会議では一つ一つの交通手段についての話もするが、全体の公共交通を協議する場である。常に地域公共交通計画に基づいて進める必要があり、それを踏まえて説明をして欲しい。

**【事務局 松浦】**

地域公共交通計画の位置付けの一つに、隣接市との連携がある。隣接市と連携したバス路線など、市民の移動の利便性向上や公共交通の利用促進について隣接市と連携して取り組む位置付けがあり、実施主体は、春日井市と隣接市となっている。隣接市である名古屋市の政策が、春日井市の計画に合致するかどうか、この会議で審議していただくことになる。

実際の具体的な動きとして、令和3年度には小牧市巡回バスこまくるのバス停を春日井市内の上田楽町に設置した。北部オンデマンドバスの乗降ポイントとほぼ同様な位置に設置し連携をしている。バス停設置にあたり、小牧市にも春日井市地域公共交通会議にて説明をしてもらい、承認をいただいた。

**【磯部会長】**

名古屋市にも交通計画があるのであればその中で位置付けしていただきたい。隣接市と春日井市の約束であり、事業者の約束ではない。名古屋市交通局は事業者の位置付けであり、名古屋市としての計画はあるのか。その計画がどのような考えを持っているかどうか。そういった説明が地域公共交通会議で必要である。

**【中根参考人】**

この地域に名古屋市の市バスが乗り入れることについて、利用者の利便性の向上を考えているが、結果的に複数の事業者間で競合し、移動手段が失われるようでは本末転倒であると承知している。乗り入れるにあたって、他市町村とも協議をさせてもらい叶えてきた。

逆に叶わなかったものもある。そういったことから、指摘いただいたことについては十分に配慮するとともに、議論をし、同意がなければ進められないと考えている。

名古屋市では交通計画を設けていない。したがって計画の位置付けといったものはない。名古屋市や名古屋市近郊のバス事業、福祉事業ととらえて、路線計画の説明をしている。春日井市の地域公共交通計画に沿ったものでない限り、了承されるものではないと理解している。

名古屋市に交通計画はないが、春日井市内の駅に乗り入れるとなると、地方自治法に基づく手続きが必要になる。春日井市議会、名古屋市議会双方にまたがる公の施設の設置については、議会の議決を経る必要があるため、双方の自治体レベルでの合意が必要になる。

**【木下参考人】**

利用者の利便を考え、その中で、事業者や商業への影響について、よく意見交換して進めて欲しい。

**【小林委員】**

利用者が便利になることと、他事業者やバス会社への影響をよく検討する必要があるのではないか。

**【磯部会長】**

春日井市は JR 中央線に沿って細長い街である。しかし、小牧市の桃花台地区の方も春日井市へ来たいと考えるし、志段味地区が発展するとその地域も春日井市への接続を期待すると予想される。つまり、直角方向の流れも重要だと考えられる。そのため、小牧市も地域公共交通計画を策定し、お互いの地域公共交通計画の中で位置づけている。名古屋市は計画を持っていないが、小牧市のように進めていけたらと考える。これは交通局の仕事ではないかもしれないが、内部で共有いただきたい。

(3) 報告事項 2 「シルバーパス65、ゴールドパス70」購入補助実証実験結果報告

**【事務局 菊池】**

資料3について説明を行った。

**【磯部会長】**

委員に意見を求めた。

**【奥村委員】**

来年度の実施予定はないとのことだが、事業者が頑張っているサービスに対して行政が補助をすることは、結果としてタクシーや他の交通の活性化にも間接的につながると思う。結果を踏まえた判断だと思うが、見直すところがあれば見直し、シティバスの定期券の促進等も行い、市民が公共交通を利用しやすいような環境をつくっていただければありがたい。

**【事務局 松浦】**

いくつかの乗り物を一つのサービスとして予約、経路検索、支払いをする MaaS と呼ばれるものになれば、気軽に便利に外出ができるようになる。最終的にそこを目標としたため、

乗り放題券の補助という選択をした。ただ補助をするだけではなく、シティバスの定期券プレゼントの選択肢も作成し、交通間の連携を図ることも試みた。様々なことを交通事業者と協議し、試し、課題を見つける。このような取り組みを続けていきたい。

乗り物を整えたら、次に乗り物があるということを知っていただき、乗ってみようという気になっていただき、乗っていただく。そうしたモビリティマネジメントの取り組みも来年度取り組んでいくことを考えている。周知活動にあわせ、利用者が便利と思う手段も事業者と考えていきたい。

#### (4) 報告事項3 高蔵寺ニュータウンにおける交通に係る取組について

##### 【事務局 津田】

資料4について説明を行った。

##### 【磯部会長】

委員に意見を求めた。

##### 【木野瀬委員】

ニュータウンの取り組みが非常に充実している。春日井市内の他地域では、運転免許返納者が、近くに買い物に行くのも大変だと聞いている。ニュータウンの実証実験の良いところを、他地域に横展開してほしい。オンデマンドタクシー事業はすぐに当てはめることができると思う。今後高齢者が増加し、免許返納者が増えてくることは間違いない。それを先取りし、オンデマンドタクシーの他地域への展開をして欲しい。

##### 【橋本委員】

運転に自信がなくなった方や事故を起こされた方に警察の方で免許返納を呼び掛けている。その中で、返納があった方に対して、高齢者交通事故ハザードマップ及び春日井市シティバスマップを配布し啓発している。

##### 【磯部会長】

名古屋大学と市が協働してニュータウンで様々な事業を行っており、その成果が学会発表などで報告されていると思うので、地域公共交通会議に資料を提出いただき、一緒に勉強すると良いと思う。

##### 【木下参考人】

オンデマンドタクシーのチラシについて、タクシーの半額と記載がある。イメージとしては正しいが、純粋なタクシーではないことを利用者が理解できるようにお願いしたい。

#### (4) 報告事項4 春日井市地域公共交通計画の進捗状況について

##### 【事務局 菊池】

資料5について説明を行った。

##### 【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【木下参考人】

既存路線の項目で桃山線の廃止とあるが、この目標は確保維持であって、桃山線廃止は合致しない。桃山線廃止は事実だが、ここに記載するのは違うのではないか。

【事務局 松浦】

桃山線は利用者が減少しており、市の北部から、通勤通学のお客様を乗せて春日井駅に運ぶ役割を担っていたが、桃山町付近は高齢化が進み、バスで通勤通学する方々が減少し、利用者の減少につながった。通勤通学ではなく、通院や買い物の需要があるかについて、地域に働きかけている。市が乗り物を導入しても、地域が欲しい乗り物と一致しないと利用が見込めない。よって、北部オンデマンドバスの時のように、地域の方が主体となり、どのような乗り物が必要かを市と一緒に取り組めると良いと考えている。

【磯部会長】

実施主体を市とし桃山線廃止に伴う次の段階の検討準備と書くのはどうか。

【木下参考人】

実施主体を変更しても問題はないか。

【事務局 松浦】

地域公共交通計画に記載しているものである、桃山線廃止は以前から予定されていたが、それ以外の路線については新型コロナウイルスの状況下であっても十分維持していただいていると思っている。

【磯部会長】

名鉄バス全体としては、努力されているということを書くということか。

【事務局 松浦】

そうなる。記載方法についてはこちらで整理し資料を修正する。

【大野委員】

名鉄バスが独自に行った出前講座などが報告として挙がるのが正しいのか。例えば、フリーパスも春日井市の補助をいただいて実施したと記載するのが正しいのではないか。

【事務局 松浦】

連携をする事業もあれば、事業者が単独で行うものもある。必ずしも実施において市が直接関与しなくても地域の足を支えるため、交通事業者が単独でやられたこともここに記載するべきであると理解している。

【大野委員】

事業者としてやったことを紹介したとの認識でよいか。

【事務局 松浦】

そうです。

【木下参考人】

バス待ち環境改善のバス停安全性確保について、皆様のご協力もあり、改善が進んでいる。春日井市内残り5箇所ほどあるが、引き続き協力をお願いしたい。

一日乗車券について、現状の売上等教えていただきたい。

【事務局 津田】

一日乗車券は、細かい数字はないが、概ね30枚ほど売れたと報告を聞いている。

初めて他事業者との連携による共通乗車券を発行したということもあり、今回の試行を通じて、他事業者との連携の課題の洗い出しを名鉄バス、センター開発と行っているところである。

◎その他意見

【木下参考人】

地域公共交通計画108ページについて。AIオンデマンド乗合サービスについて、事業の主体が名古屋大学、春日井市内タクシー組合、市となっている。事業の主体はあくまでも各交通事業者である。また、2021年頃から「自主運行」を行うと表現されているが（本格運行から自主運行へ変わっていく表現が分かりにくく）計画の表現についてはご留意いただきたい。

上記のとおり令和3年度第4回春日井市地域公共交通会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名をする。

令和4年6月14日

会 長 磯部 友彦

署名人 幸池 登